

# ニチレイロジグループ

## 2019年度事業報告会

2020年5月18日

## 1. 企業概要

## 2. 2020年3月期 決算概要

## 3. 中期経営計画

### ①進捗状況

### ②2020年度重点施策

## 4. 参考資料

# 1. 企業概要

## [組織体制]

### (株)ニチレイロジグループ本社 (持株会社)

2020年4月1日現在

#### 地域保管事業

(株)ニチレイ・ロジスティクス北海道

(株)ニチレイ・ロジスティクス東北

(株)ニチレイ・ロジスティクス関東

(株)キョクレイ

(株)ニチレイ・ロジスティクス東海

(株)ニチレイ・ロジスティクス関西

(株)ニチレイ・ロジスティクス中四国

(株)ニチレイ・ロジスティクス九州

#### エンジニアリング事業

(株)ニチレイ・ロジスティクス  
エンジニアリング

#### 物流ネットワーク事業

(3PL・運送・流通・加工)

(株)ロジスティクス・ネットワーク

(株)NKトランス



子会社30社 関連会社8社

#### マレーシア事業 (関連会社)

NL Cold Chain

Network(M)SDN BHD

#### 海外事業

##### 欧州事業

Nichirei Holding Holland B.V.

HIWA Rotterdam Port Cold Stores B.V.

Eurofrigo B.V.

Thermotraffic Holland B.V.

Thermotraffic UK Ltd.

Thermotraffic GmbH

Frigo Logistics Sp.z o.o.

Transports Godfroy S.A.S

Entrepots Godfroy S.A.S

##### 中国事業

上海鮮冷儲運有限公司

江蘇鮮華物流有限公司

##### タイ事業 (関連会社)

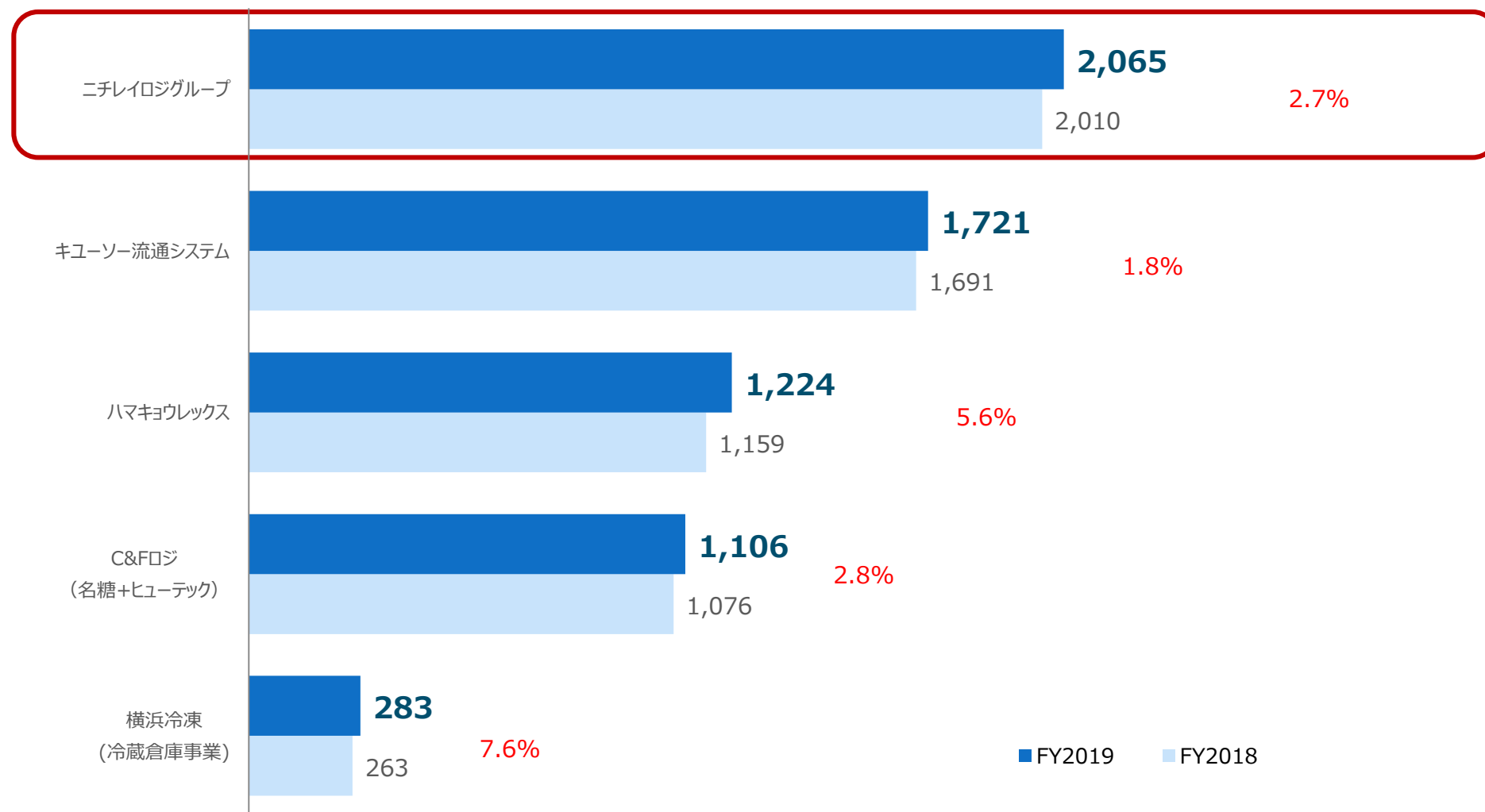
SCG Nichirei Logistics Co.,Ltd.

# 1. 企業概要

## [ポジション①]

単位：億円

### 主要低温物流企業の売上高



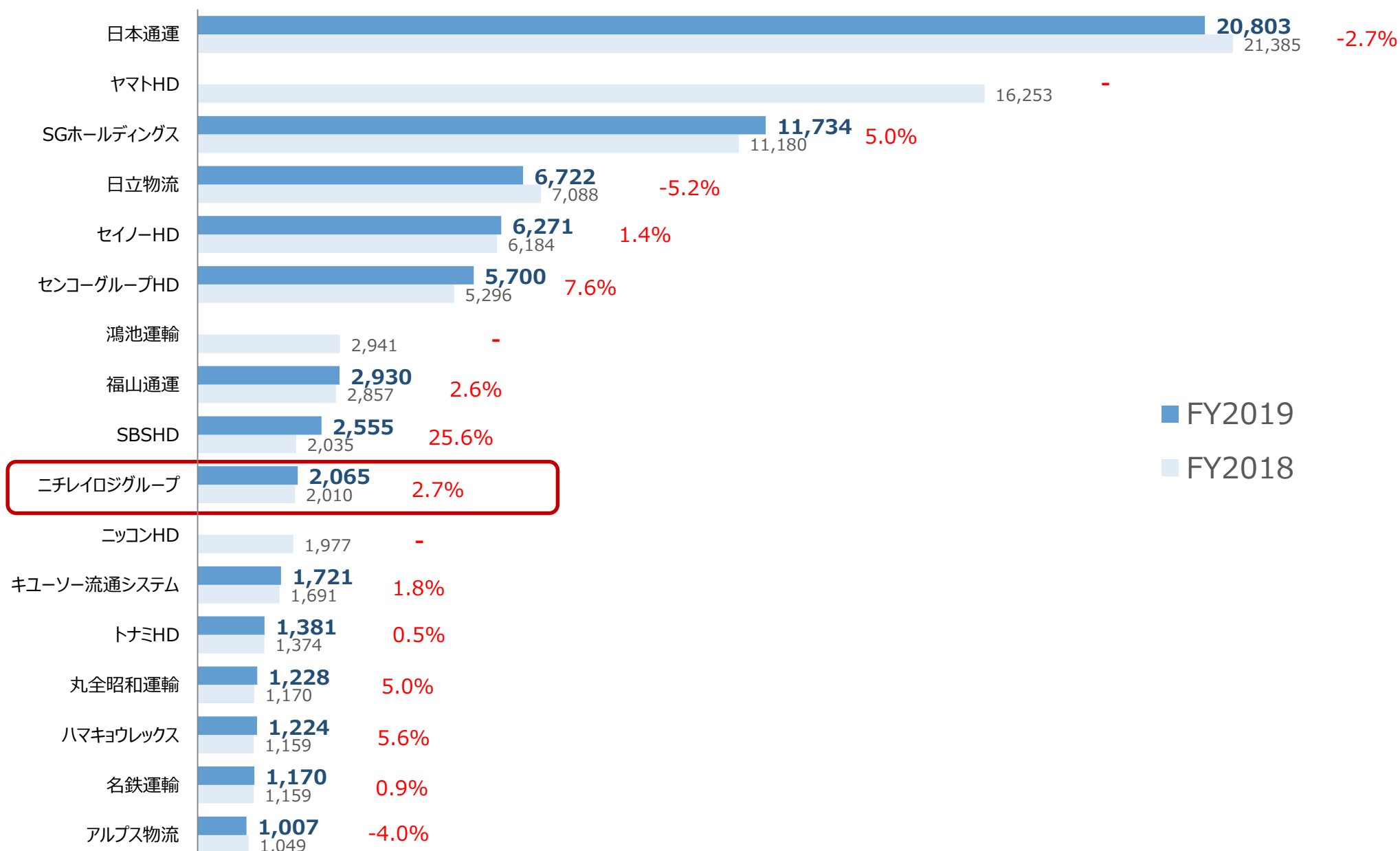
※低温物流を主とする物流会社を選定

※各社決算短信（2020年5月14日時点の最新版）における年度実績数値を基に作成。

# 1. 企業概要

## [ポジション②]

### 主要物流企業（陸運）の売上高



※トラックによる輸送を主とする物流会社を選定

※各社決算短信（2020年5月14日時点の最新版）における年度実績数値を基に作成。決算未発表会社の業績については空白。

# 1. 企業概要

## [ポジション③]

### 冷蔵倉庫設備能力国内ランキング(推計)

順位	会社名	設備能力(ト)	全国シェア
1	ニチレイロジグループ	1,489,820	9.5%
2	横浜冷凍(株)	884,628	5.6%
3	(株)マルハニチロ物流	655,099	4.2%
4	東洋水産(株)	542,707	3.5%
5	(株)C&Fシールドホールディングス	495,227	3.2%
6	日水物流(株)	415,566	2.7%
7	(株)松岡	362,716	2.3%
8	(株)キューソー流通システム	259,475	1.7%
9	鴻池運輸(株)	251,000	1.6%
10	(株)ランテック	247,080	1.6%
11	五十嵐冷蔵(株)	235,510	1.5%
12	(株)二葉	234,087	1.5%
13	(株)ハウスイ	215,180	1.4%
14	(株)兵食	175,973	1.1%
15	(株)日本物流センター	172,110	1.1%
16	第一倉庫冷蔵(株)	158,424	1.0%
17	藤林グループ	155,698	1.0%
18	寶船冷蔵(株)	125,199	0.8%
19	山手冷蔵(株)	113,010	0.7%
20	(株)上組	107,684	0.7%

※出所：日本冷蔵倉庫協会 2019年4月時点資料をもとに弊社加工

### 冷蔵倉庫設備能力世界ランキング

順位	Company	Locations	Capacity(m3)
1	Lineage Logistics	United States, etc	42,601,960
2	Americold Logistics	United States, etc	32,811,514
3	United States Cold Storage	United States, etc	10,524,606
4	AGRO Merchants Group	United States, etc	7,757,406
5	NewCold Advanced Cold Logistics	United States, etc	5,510,621
6	Nichirei Logistics Group, Inc	Japan, etc	5,398,464
7	Kloosterboer	-	4,847,346
8	VersaCold Logistics Services	Canada	3,483,218
9	Interstate Warehousing, Inc	United States	3,277,255
10	Frialsa Frigorificos	Mexico	2,995,658
11	VX Cold Chain Logistics	China	2,746,608
12	Burriss Logistics	United States	2,120,984
13	Henningsen Cold Storage	United States	1,844,602
14	Congebec Logistics, Inc.	Canada	1,635,065
15	Conestoga Cold Storage	Canada	1,603,343
16	Hanson Logistics	United States	1,240,801
17	Stockhabo	Belgium	1,084,899
18	Friozem Armazens Frigorificos	-	978,999
19	Trenton Cold Storage, Inc.	Canada	970,626
20	Confederation Freezers	Canada	918,824

※出所：IARW（世界冷蔵倉庫協会）「Global Top 25 List」2020年3月

## 1. 企業概要

## 2. 2020年3月期 決算概要

## 3. 中期経営計画

### ①進捗状況

### ②2020年度重点施策

## 4. 参考資料

## 2. 2020年3月期 決算概要

### [ハイライト]

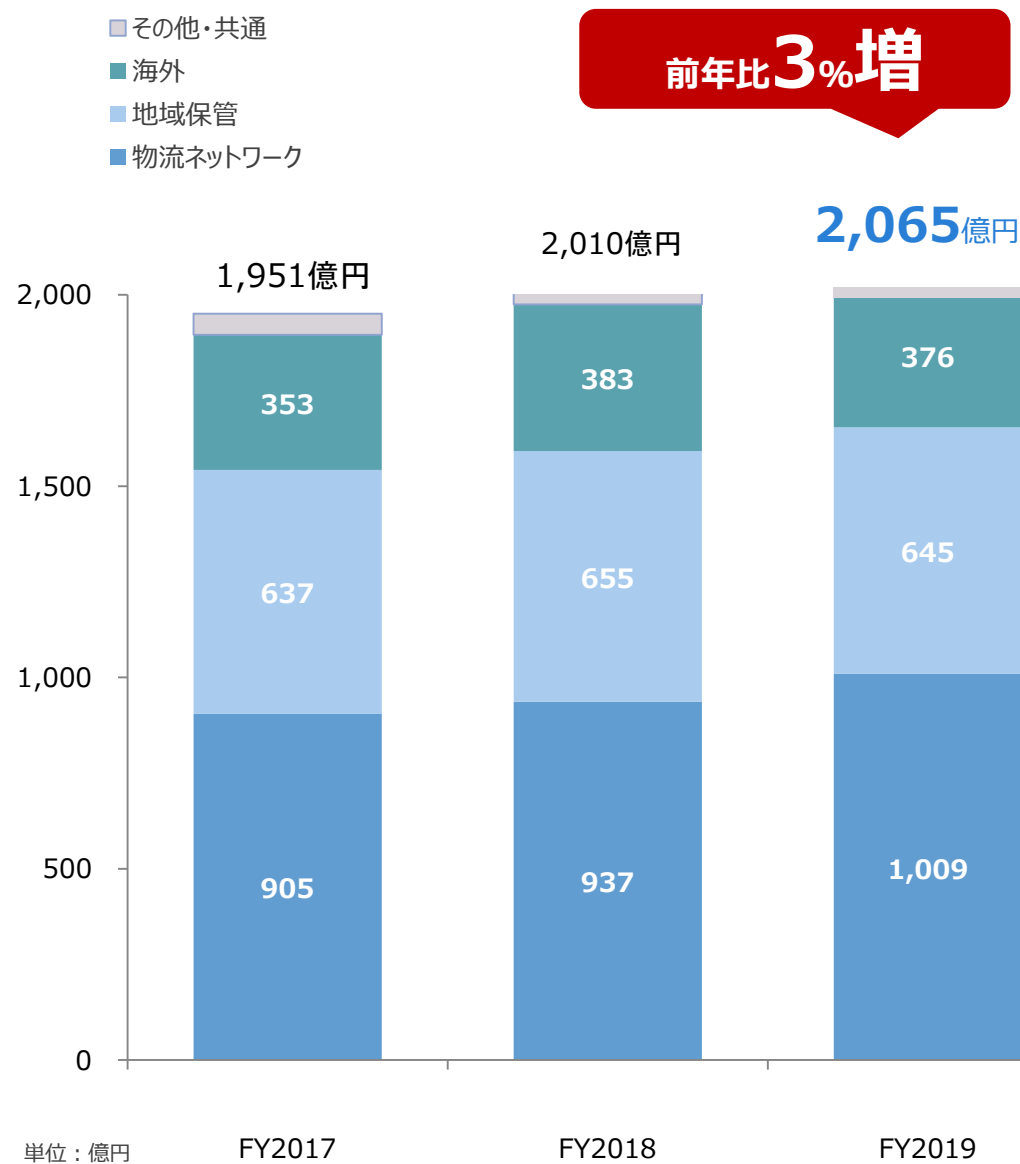
連結	分社化以降の最高益を更新		
	売上高	: 2,065億円	前年比 3%増
	営業利益	: 118億円	前年比 4%増
物流 ネットワーク 事業	TC事業好調、全体の売上高・営業利益の伸長に寄与		
	売上高	: 1,009億円	前年比 8%増
	営業利益	: 41億円	前年比 7%増
地域保管 事業	首都圏及び関西業績が堅調に推移し営業利益増益		
	売上高	: 645億円	前年比 2%減
	営業利益	: 67億円	前年比 5%増
海外 事業	欧州事業は現地通貨ベースでは堅調に推移するも、 為替影響により円貨ベース売上減少		
	売上高	: 376億円	前年比 2%減
	営業利益	: 12億円	前年比 1%増



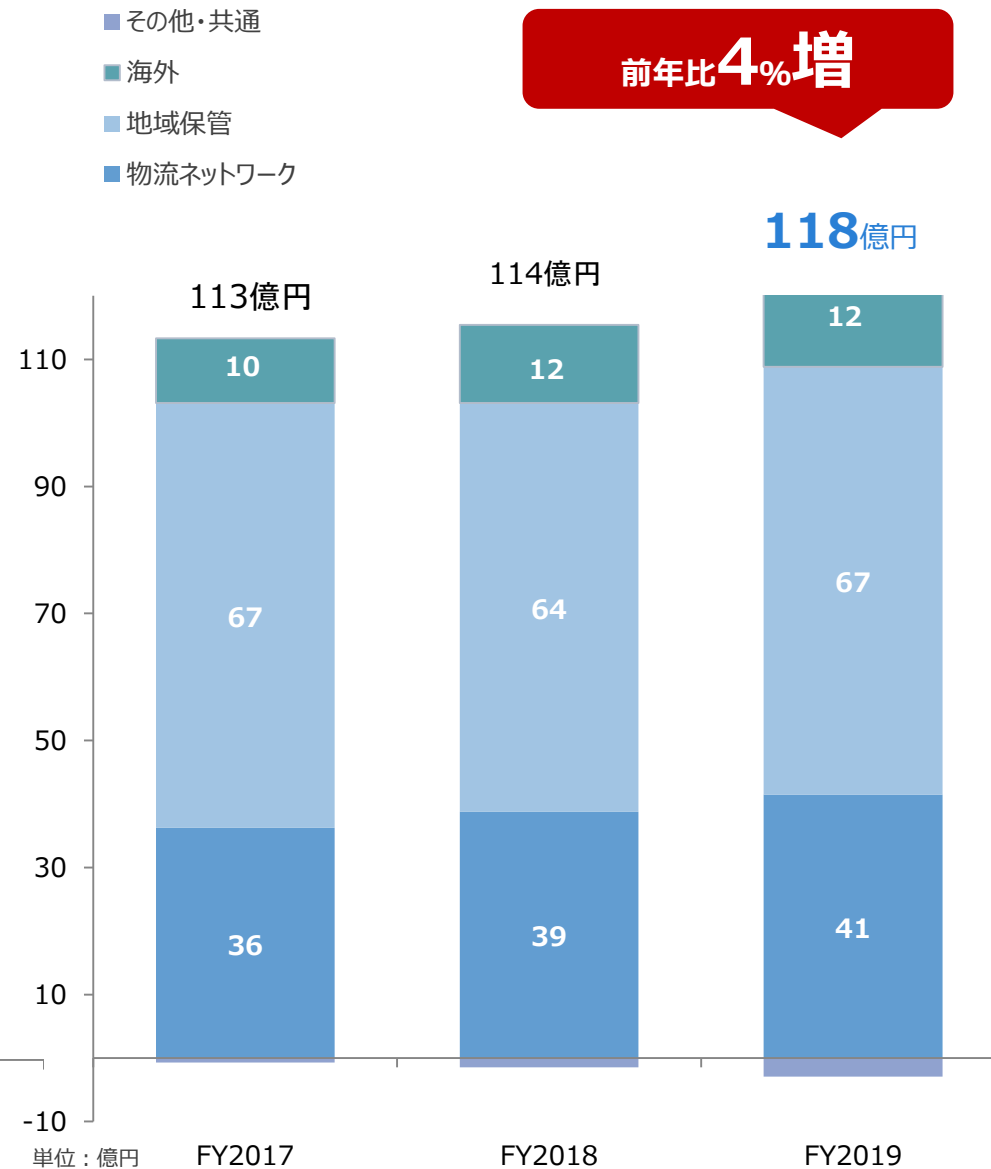
## 2. 2020年3月期 決算概要

### [連結業績]

#### 売上高推移

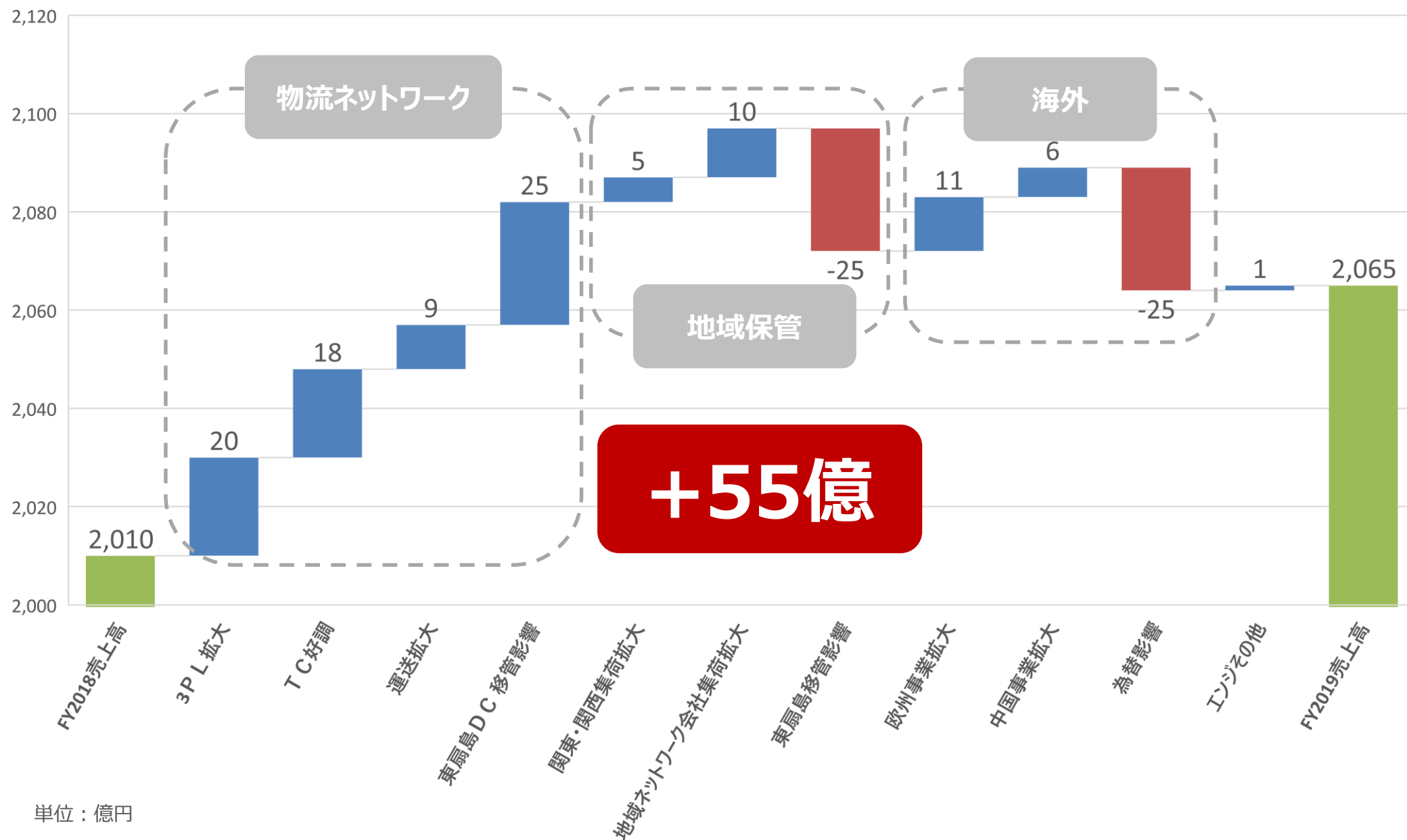


#### 営業利益推移



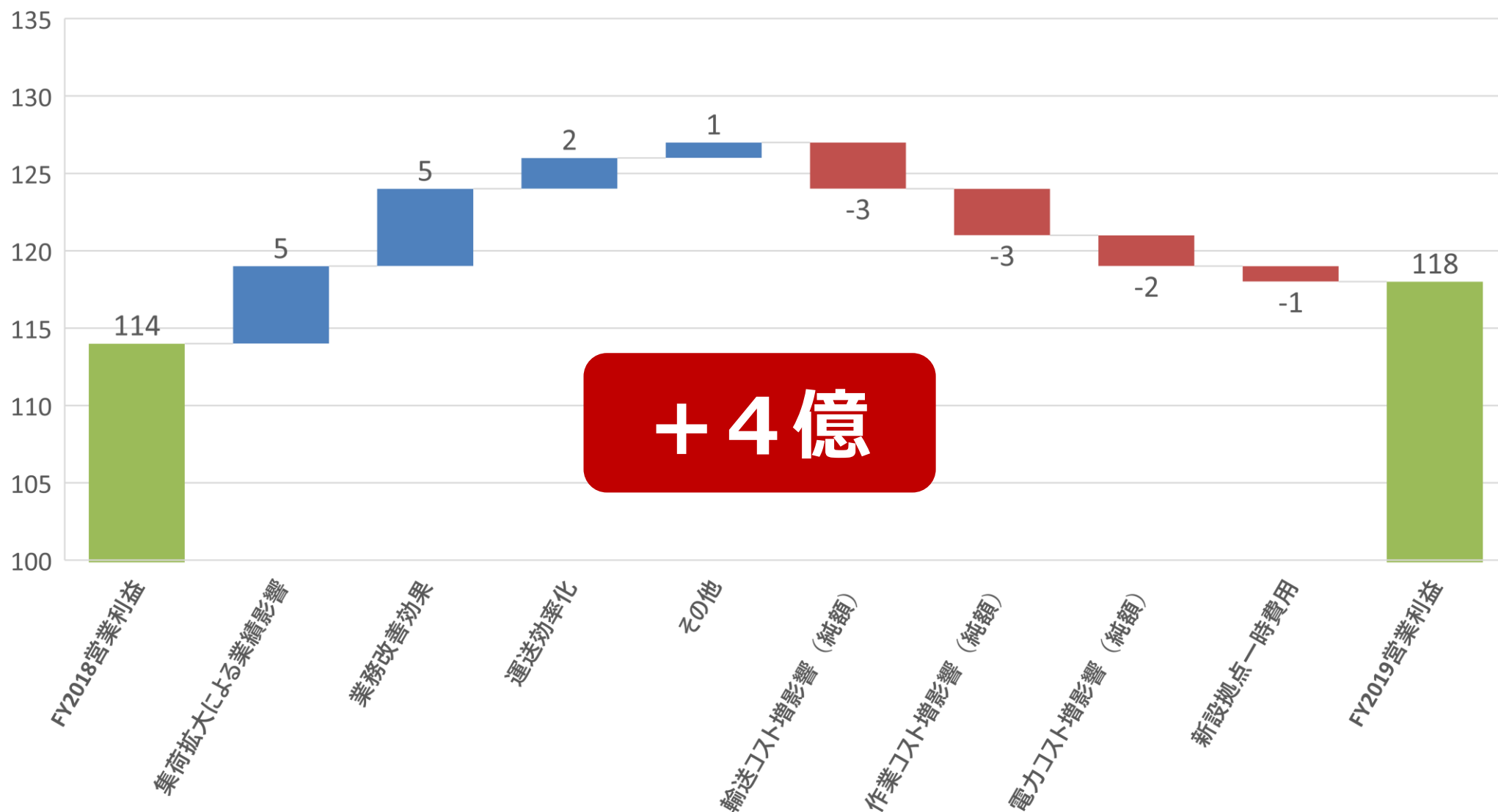
## 2. 2020年3月期 決算概要

### [連結：売上高の増減要因]



## 2. 2020年3月期 決算概要

### [連結：営業利益の増減要因]

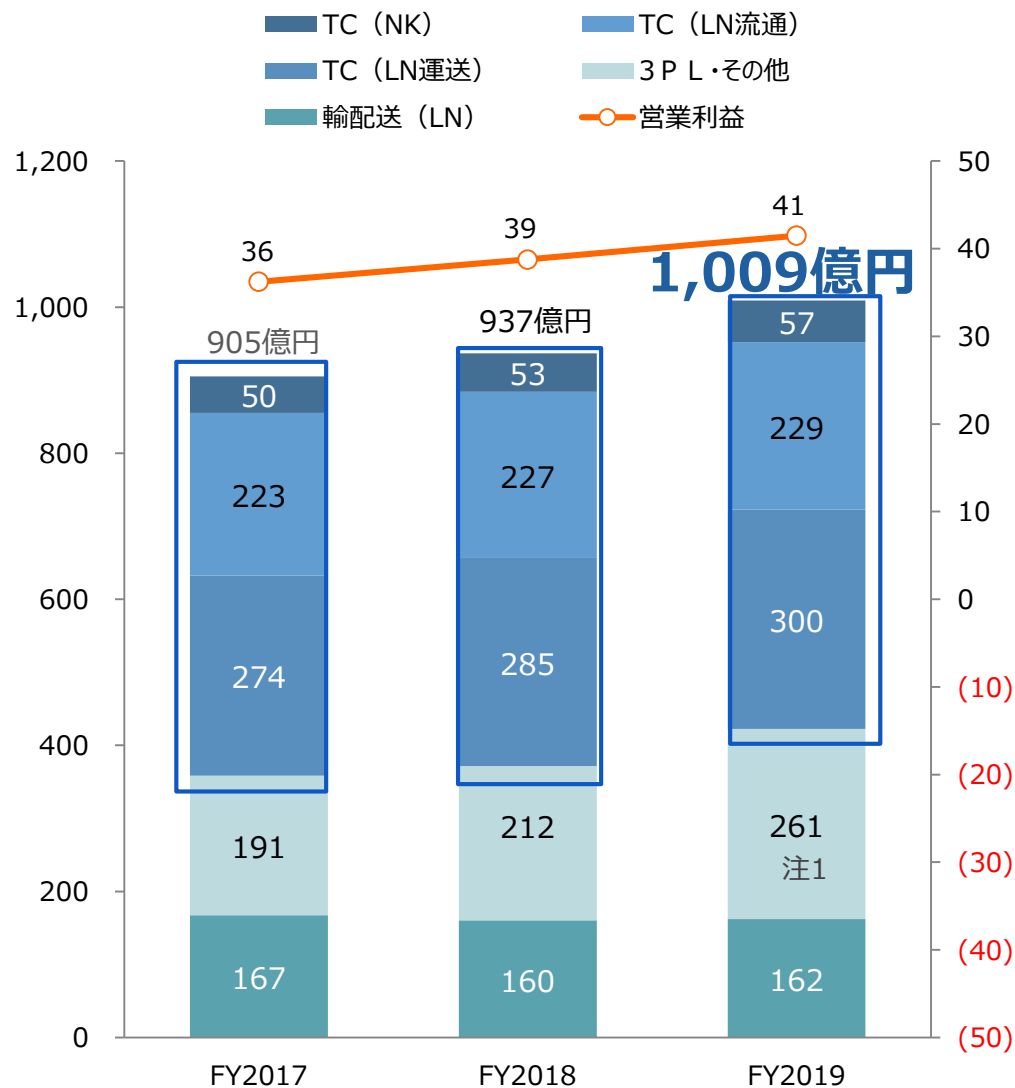


単位：億円

## 2. 2020年3月期 決算概要

### [物流ネットワーク事業]

#### 売上高・営業利益推移



単位：億円

注1：地域保管事業からの移管分売上高25億円含む（東扇島DC）

#### トピックス

### 売上面では3PL事業、利益面ではTC事業が業績を牽引

#### ■ TC事業

- 主要顧客の取扱物量増加
- 課題事業所の業績回復

#### ■ 3PL事業

- コンサル事業の業容拡大
- 統合後東扇島DCの一体運営最大化

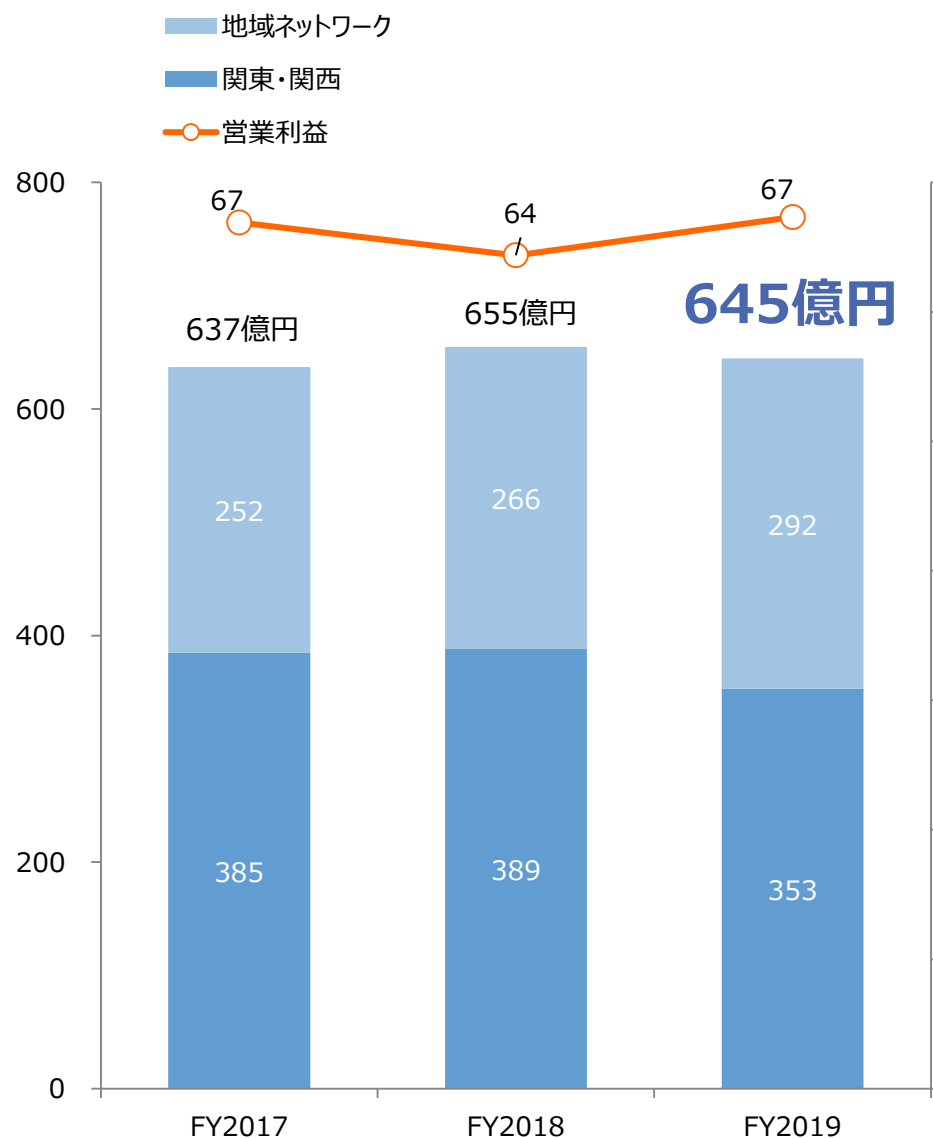
#### ■ 輸配送事業

- ドライバー不足に伴う車両調達コスト上昇
- 労働時間適正化への対応コスト

## 2. 2020年3月期 決算概要

### [地域保管事業]

#### 売上高・営業利益推移



#### トピックス

各種コスト上昇が継続するも、地域各社独自施策が奏功し営業利益は前年比増を達成

##### ■ 大都市圏

- ・ 関東港湾地区における自社・他社も含めた高効率な庫腹運用による集荷拡大
- ・ 輸入貨物荷揚げ先分散化ニーズ拡大に伴う関西・中部エリアの取り扱い物量増加

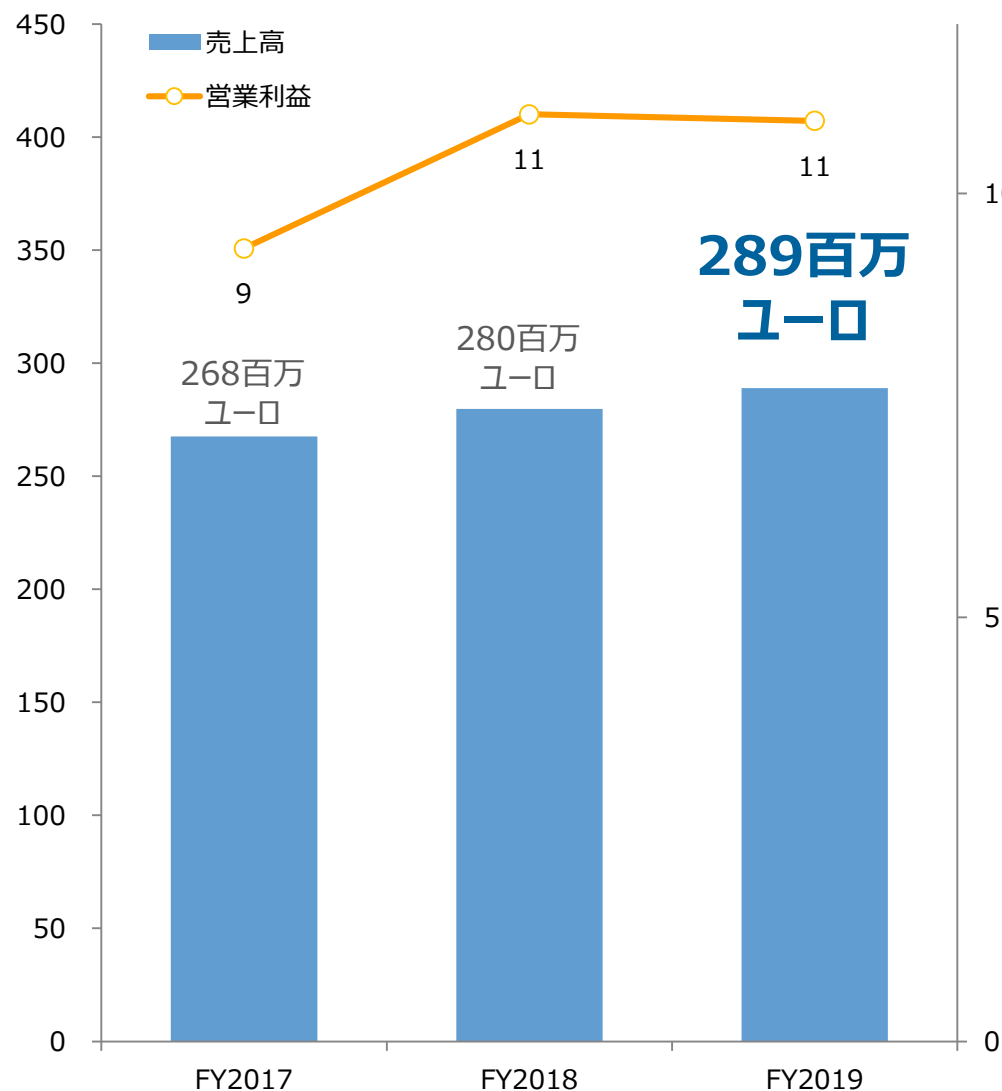
##### ■ 地域ネットワーク

- ・ 輸入手続きから運送までの一貫サービス提供によるキョクレイ飲料原料取扱拡大
- ・ 新設を見据えた名古屋地区支配在庫拡大
- ・ 中四国エリアにおける冷蔵共同化の取組拡大

## 2. 2020年3月期 決算概要

### [欧州事業]

#### 売上高・営業利益推移



#### トピックス

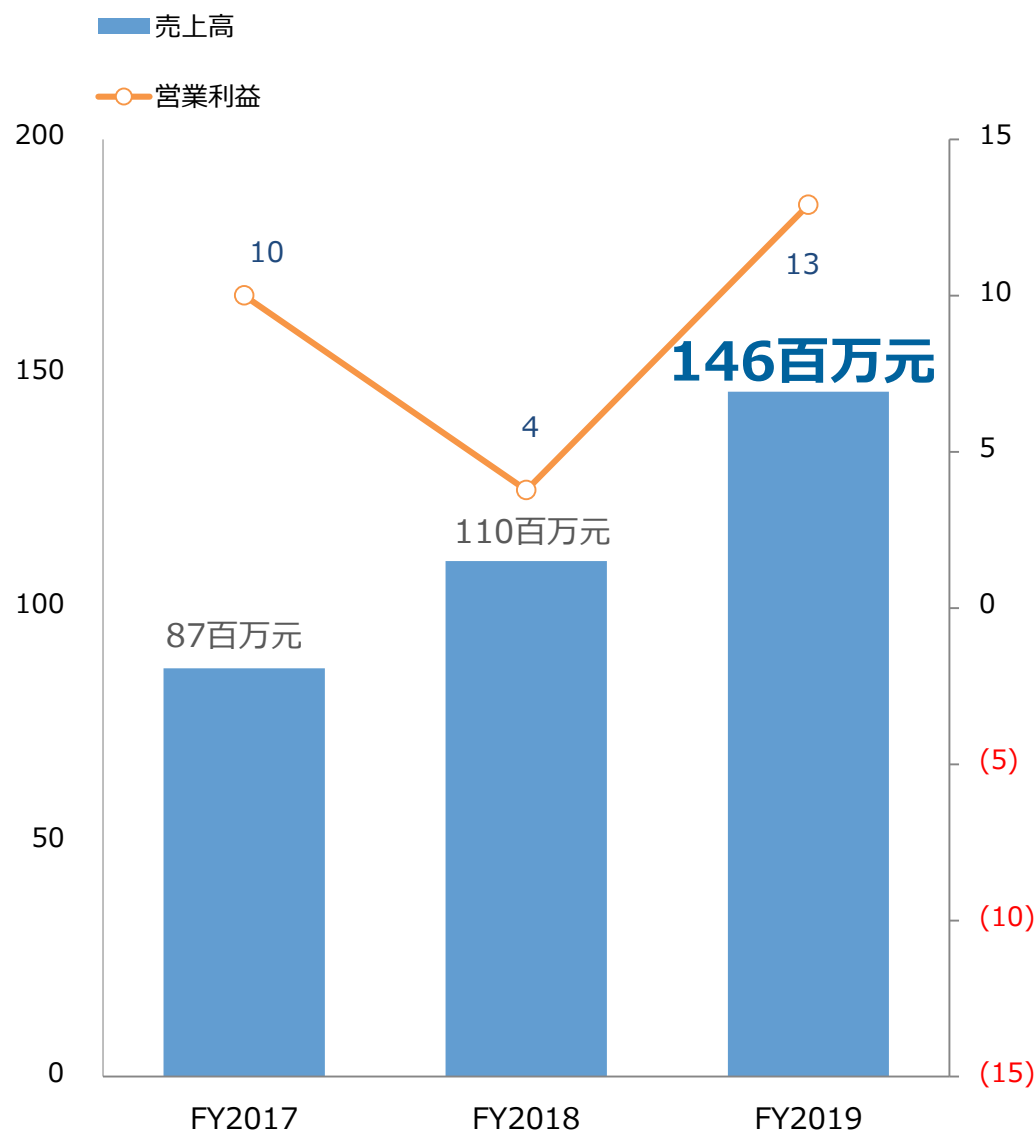
##### ドイツ・ポーランドの貢献で昨年並みの利益を堅持

- 港湾事業
  - ・ 価格調整に伴う果汁原料の在庫水準高止まり
  - ・ Brexitの先行きに備えた輸入貨物の在庫上昇
  - ・ 一方で、ブラジル産鶏肉物量は減少傾向推移
- ドイツ・ポーランド
  - ・ EU域内および中東・アジア向け幹線貨物が伸長
  - ・ 調達車両の効率活用でコスト上昇圧力を抑制
  - ・ 量販店顧客新規獲得によるFL社の売上高伸長
- フランス
  - ・ 大規模デモ等の政治影響による運送物量減少
  - ・ ドライバー不足や拠点整備遅れによる機会損失

## 2. 2020年3月期 決算概要

### [中国事業]

#### 売上高・営業利益推移



#### トピックス

### 計画通りに新拠点が安定化し、収益力が大幅拡大

#### ■ 流通・保管事業

- 大手CVS出店加速に伴う流通取扱増
- 江蘇鮮華(3温度帯新設)安定稼働による華東エリア事業基盤の強化
- 新規カテゴリの取扱い拡大による保管需要の増加

#### ■ 配送事業

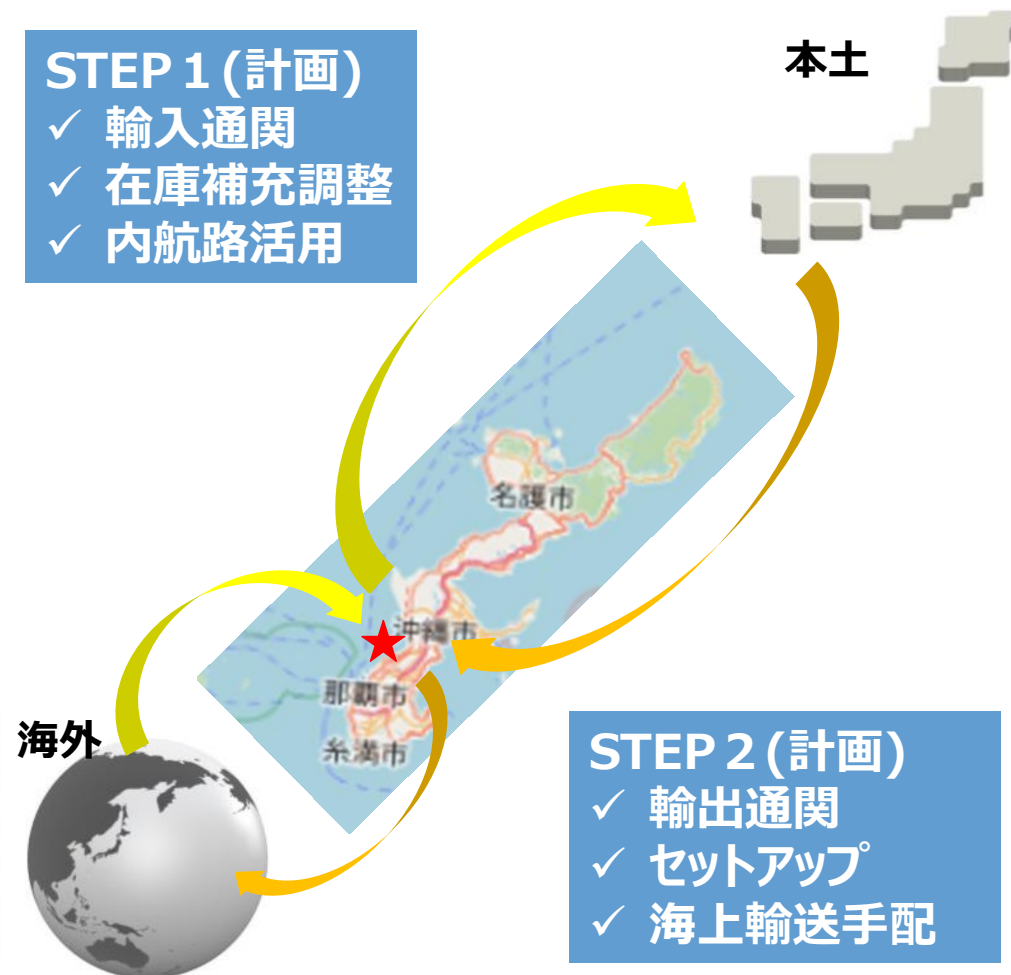
- 主要顧客の取扱い物量が順調拡大
- 保管・配送ワンストップサービスへの引き合いが増加、新規顧客獲得に貢献

# 【トピック】那覇新港物流センターの安定稼働

- 那覇港に隣接する立地優位性に加え、集荷・配送などのきめ細かな物流サービス提供による県内新規顧客の獲得推進
- 本州との内航路を活用した、輸出入ゲートウェイスキームへの取組



- STEP 1 (計画)
- ✓ 輸入通関
  - ✓ 在庫補充調整
  - ✓ 内航路活用





- 産地隣接の立地優位性を生かし、作柄に応じた流通加工を通年提供
- 生産者様との協同で雇用機会創出と利便性の高い付加価値サービスを両立



## 産地課題解決と高付加価値の両立

フードロスの発生・不安定な農業収入、地域雇用etc...



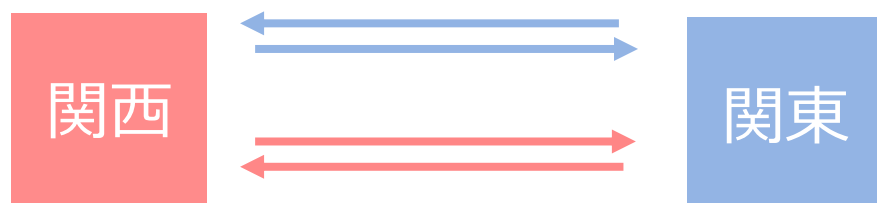
生産者様との協同による地方創生への貢献

# 【トピック】幹線輸送スイッチング運行開始

- 幹線基盤強化により車両稼働率を向上するとともに、高効率・高品質な物流サービスを安定提供へ
- パートナー企業乗務員の労働環境改善や運送効率化に伴う環境負荷軽減の実現へ



## 従来型モデル



運送会社が両エリアを往復  
⇒ 1 行程につき所要期間約 3 日

## スイッチングモデル(2019年10月～)

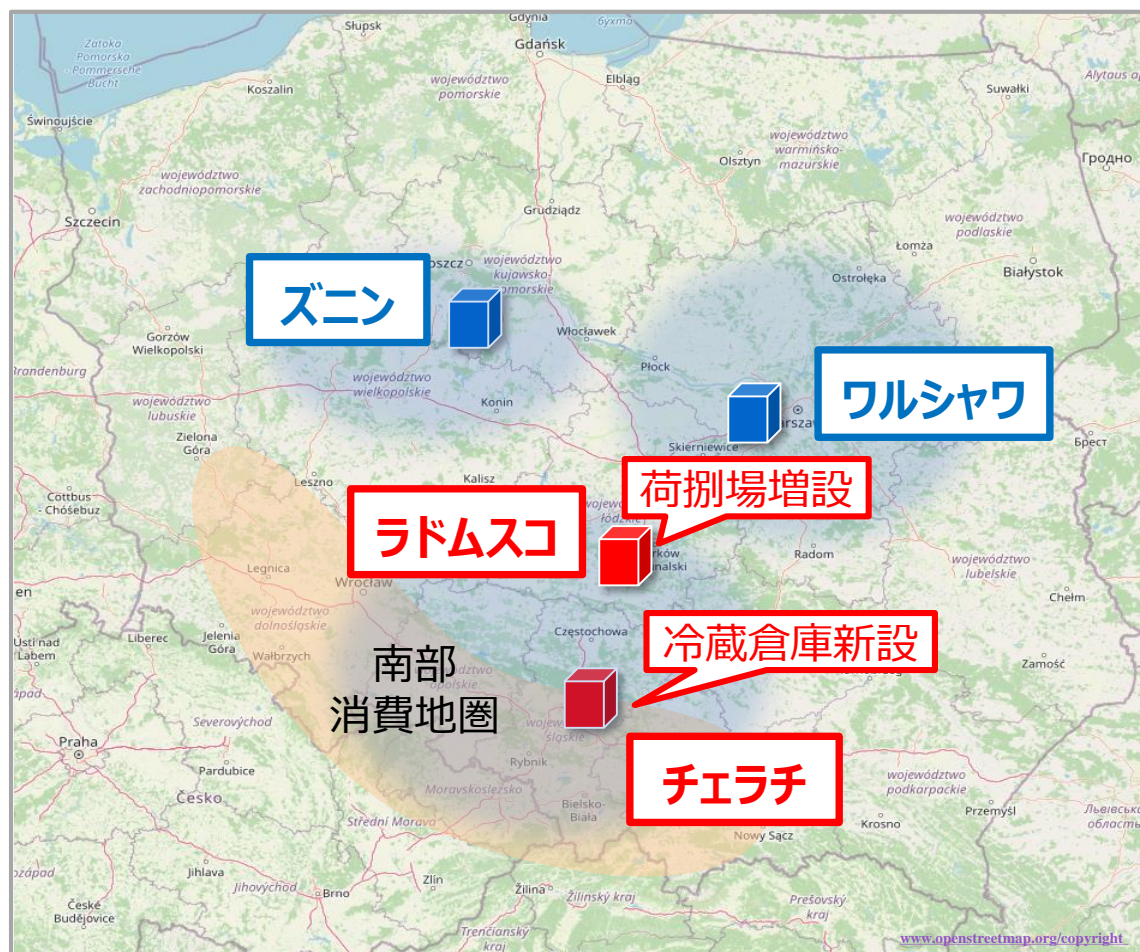


中継拠点でトレーラーヘッド交換  
⇒ 日帰り運行の実現



# 【トピック】ポーランド事業の拡大

- 大手GMS（新規3社）を獲得、取り扱い物量が大幅伸長
- 新增設による拠点基盤強化と運送ネットワークの拡大で、量販顧客向け冷食物流サービス分野のリーディングカンパニーとしての圧倒的なポジションを確立



## 1. 企業概要

## 2. 2020年3月期 決算概要

## 3. 中期経営計画

### ①進捗状況

### ②2020年度重点施策

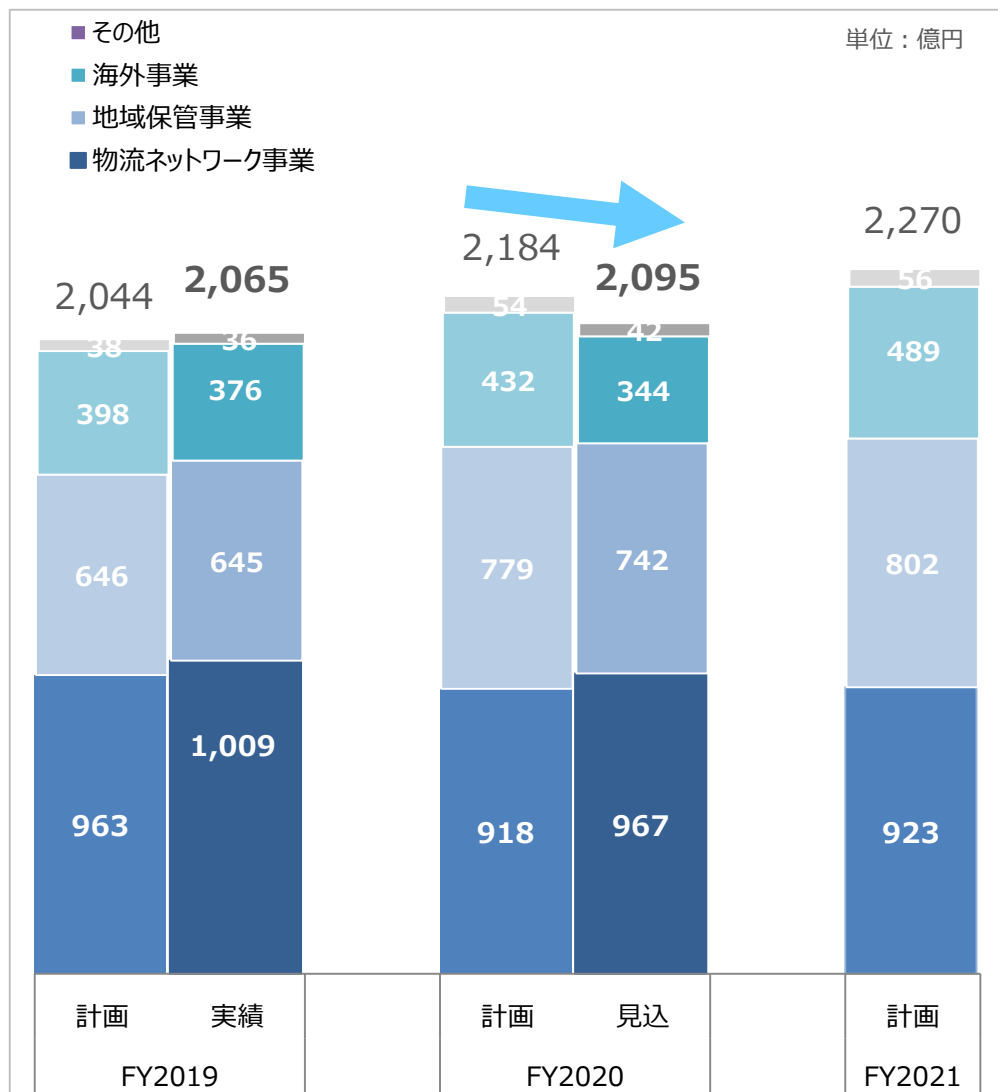
## 4. 参考資料

# 3-①. 中期経営計画（2019-2021）進捗状況

## [業績進捗]

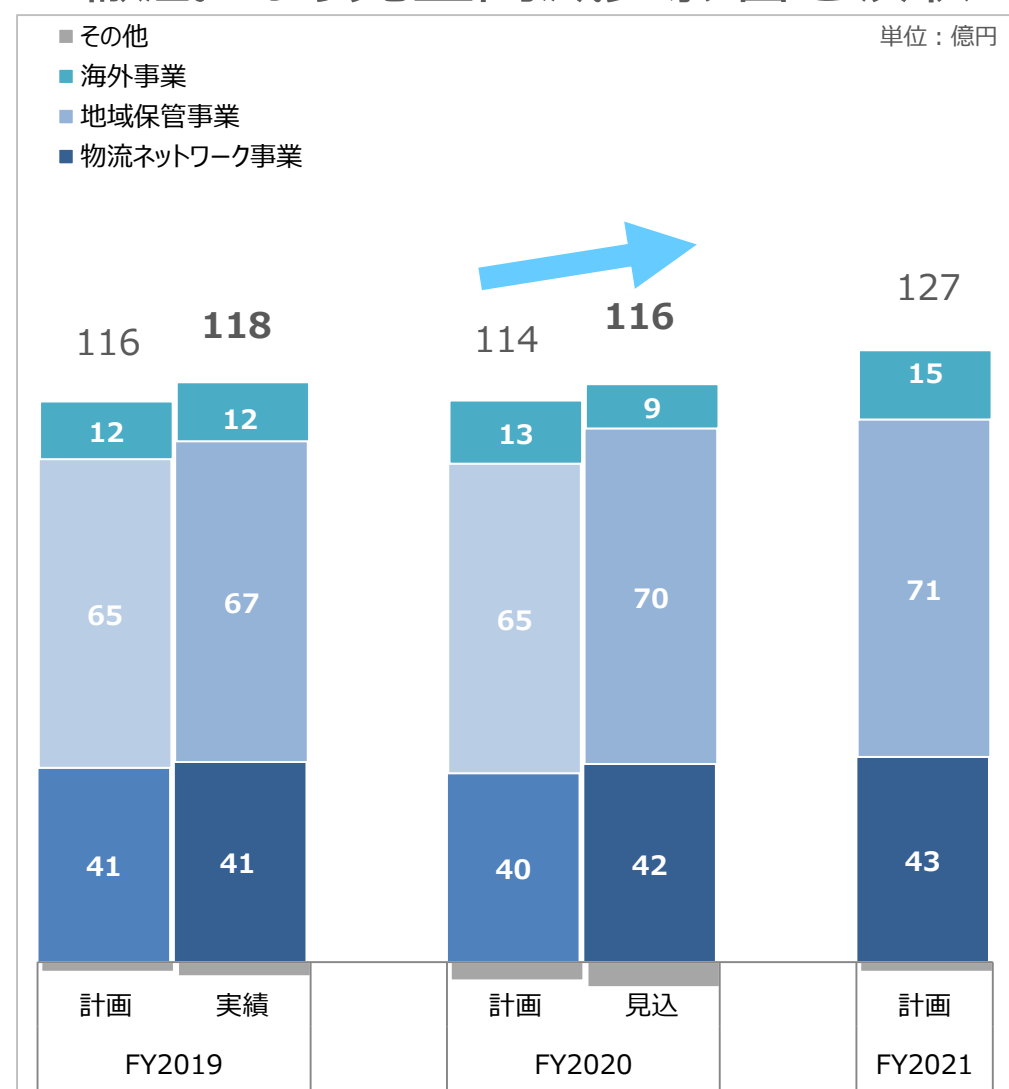
### 売上高

COVID-19の世界的感染拡大により  
売上高は減少へ



### 営業利益

利益面は、効率化とコストコントロールの  
徹底により売上高減少影響を吸収



### 3-①. 中期経営計画（2019-2021）進捗状況

新型コロナのマイナス影響を、家庭用商材増収やコストマネジメント等で最小化

<新型コロナによる利益影響>

<カバー施策>

外食向け冷凍食品貨物  
の荷動き停滞





欧州・中国事業の  
物量減少影響

家庭用冷食の物流需要  
取り込みによる収益拡大

一般管理費等のコントロール徹底  
によるコスト削減

## 3-②. 業務革新のさらなる推進

[20年度目標]

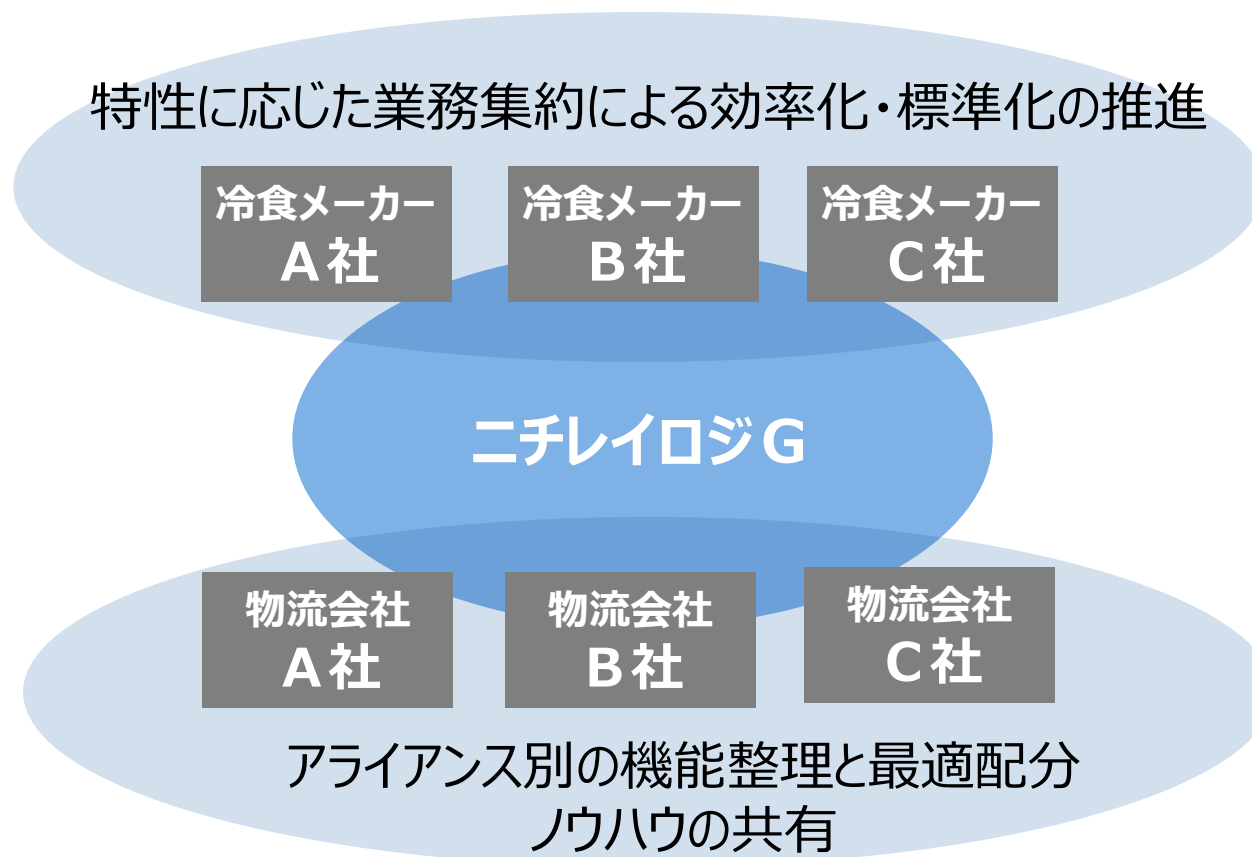
	成果の展開	新機能開発
事務処理 	<ul style="list-style-type: none"><li>・RPA化18万時間達成 ※年間換算</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・AI-OCR導入によるRPA連携実現</li></ul>
庫内作業 (タブレット) 	<ul style="list-style-type: none"><li>・タブレット新機能の全国展開 (AI-OCR賞味期限読取/ピッキング/出荷検品等)</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・作業状況可視化ダッシュボード開発</li><li>・スマートグラス等のデバイス活用</li></ul>
庫内作業 (省人化) 	<ul style="list-style-type: none"><li>・無人搬送機(AGV)の全国展開</li><li>・カゴ車搬送からパレット搬送への展開</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・冷凍無人フォークの実証実験開始</li><li>・AI画像認識技術を活用した実証実験開始</li></ul>
車両管理 	<ul style="list-style-type: none"><li>・トラック予約機能25拠点展開</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・トラック予約/AI自動配車システムのWMS連携強化</li></ul>



### 3-②. 新たな3 P Lモデルの確立

#### [冷食プラットフォーム構想：「継続的な安定化」実現モデル]

複数のメーカーと複数の物流会社とを繋げ、共通の課題解決に向けて、  
より選択肢の幅を広げた取り組みを展開



冷食メーカー向けに差別化されたワンストップサービスの提供



## 3-②. 名古屋みなと物流センター稼働（2020年4月）

### 名古屋みなと物流センター



#### 拠点戦略

- 名古屋地区カテゴリー化
- 冷蔵共配の取扱い拡大
- 輸入貨物分散需要取込
- 運送中継（ハブ機能）

#### 先端技術

- パレット・ケース自動庫
- 移動ラック
- 高速ソーター
- トラック予約システム
- 陽圧装置

#### CSR

- 構内バリアフリー対応
- 車椅子用昇降機設置
- 災害時避難場所指定
- 免震対応構造
- 物効法認定(共同化)

### 3-②. 名古屋みなと物流センター稼働（2020年4月）

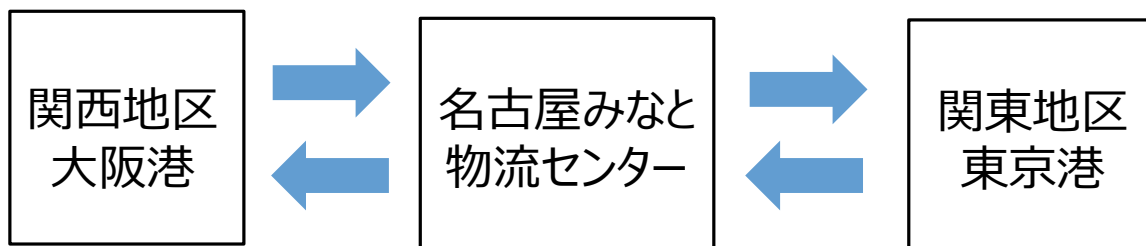
- ▶ 名古屋地区のカテゴリー化/拠点機能再編と業務効率最大化による収益向上
- ▶ 共同化の旗艦拠点として冷食の保管・輸配送の高度なワンストップサービス提供
- ▶ 先端技術活用による業革モデルセンターとしての省人化実現と他所への横展開
- ▶ 多様な人材が活躍できる設備、環境負荷低減および地域との共生



#### 名古屋地区再編対象拠点

拠点名	主要カテゴリー
名古屋みなとDC	冷食共配・宅配便クールC・幹線中継
春日DC	アイス共配・量販向け業務
小牧DC	量販・外食
白鳥DC	水産原料・メーカー原料
名古屋埠頭DC	畜産原料

#### 輸入貨物荷揚げと運送中継地点としてのハブ機能





### 3-②. 本牧物流センター稼働（2021年3月予定）

- 保管能力増強と周辺拠点連携による顧客ニーズの確実な取込
- 最新省人化設備導入による業務効率化の促進
- グループ会社との連携による運送機能のさらなる強化

本牧物流センター（完成予想図）



#### 設備能力

30,718トン  
内訳 ・F級：14,701トン  
（内FC級：5,889トン）  
・C級：16,017トン  
収容パレット数17,553枚

#### 接車バース

24バース

#### 投資総額

7,845百万円

#### 設置機能

自動倉庫  
（収容パレット数4,200枚）  
無人フォークリフト2台

### 3-②. 関西ネットワーク化（大阪港湾地区の機能融合）ニチレイロジグループ

- 関西の組織・拠点集約による大阪港湾地区での保管庫腹の最大有効活用
- 輸配送と保管の一体運営によるワンストップサービスの提供、圧倒的な物量取扱い規模と機能面の充実により、物流の全体最適を実現へ

#### ニチレイ・ロジスティクス関西

従来型港湾機能センター

幹線・地域配送機能

ロジスティクス・ネットワーク  
関西支店

桜島物流センター

大阪埠頭物流センター（2棟）

#### 新ニチレイ・ロジスティクス関西

カテゴリー化と支配在庫の拡大

港湾エリア25%の自社庫腹

協力先の他社アセットフル活用

改善提案力発揮による新規獲得

保管・配送一貫サービスの提供

ロジネットの3PL提案力発揮

### 3-②. フランス事業の基盤強化

- ルアーブル港湾への輸入貨物やリヨン近郊の産地貨物などの旺盛な保管需要獲得
- 増設による運送機能強化と拠点間幹線輸送およびパリ近郊の運送需要獲得

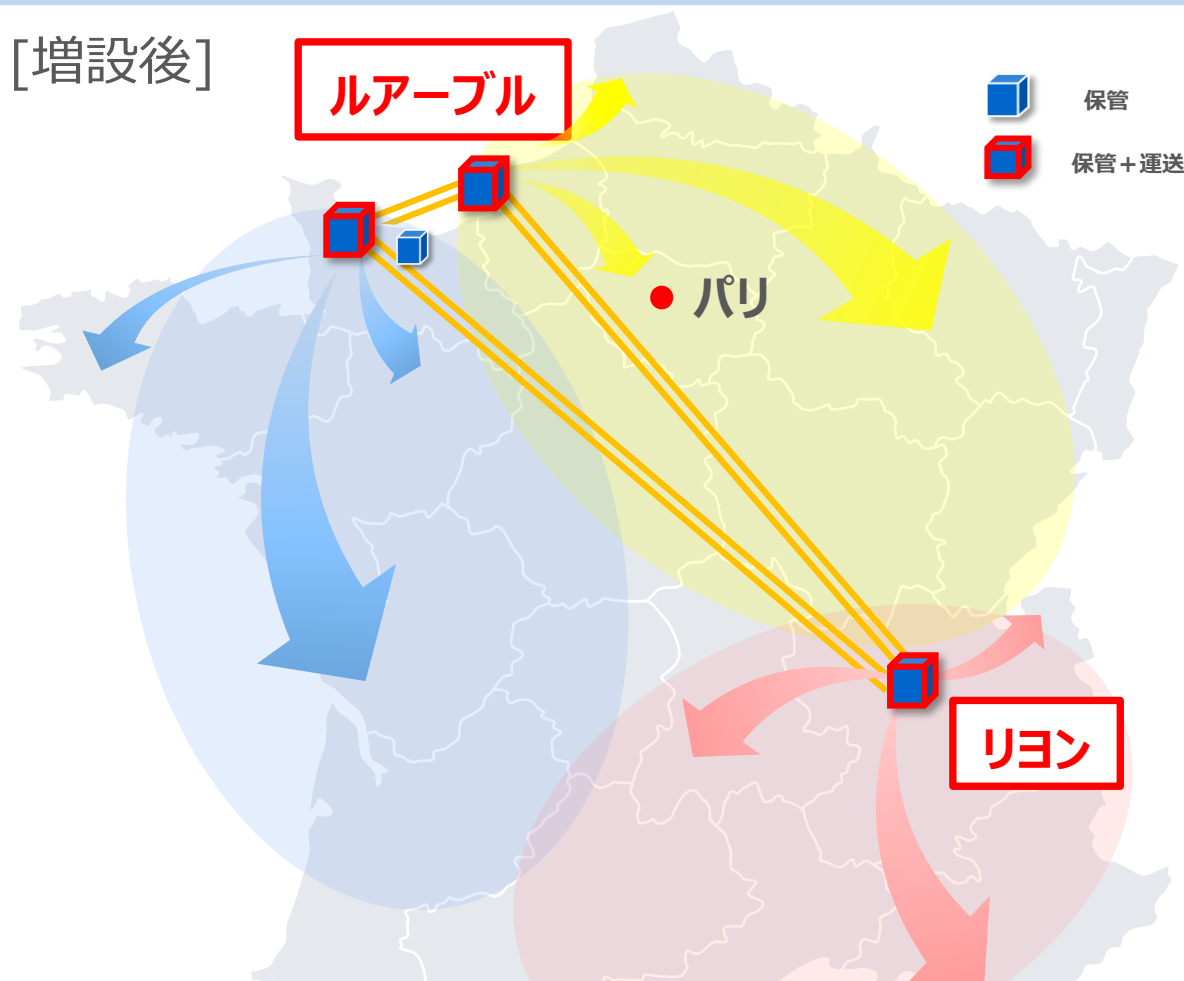
増設後ルアーブル倉庫（完成予想図）



増設後リヨン倉庫（完成予想図）



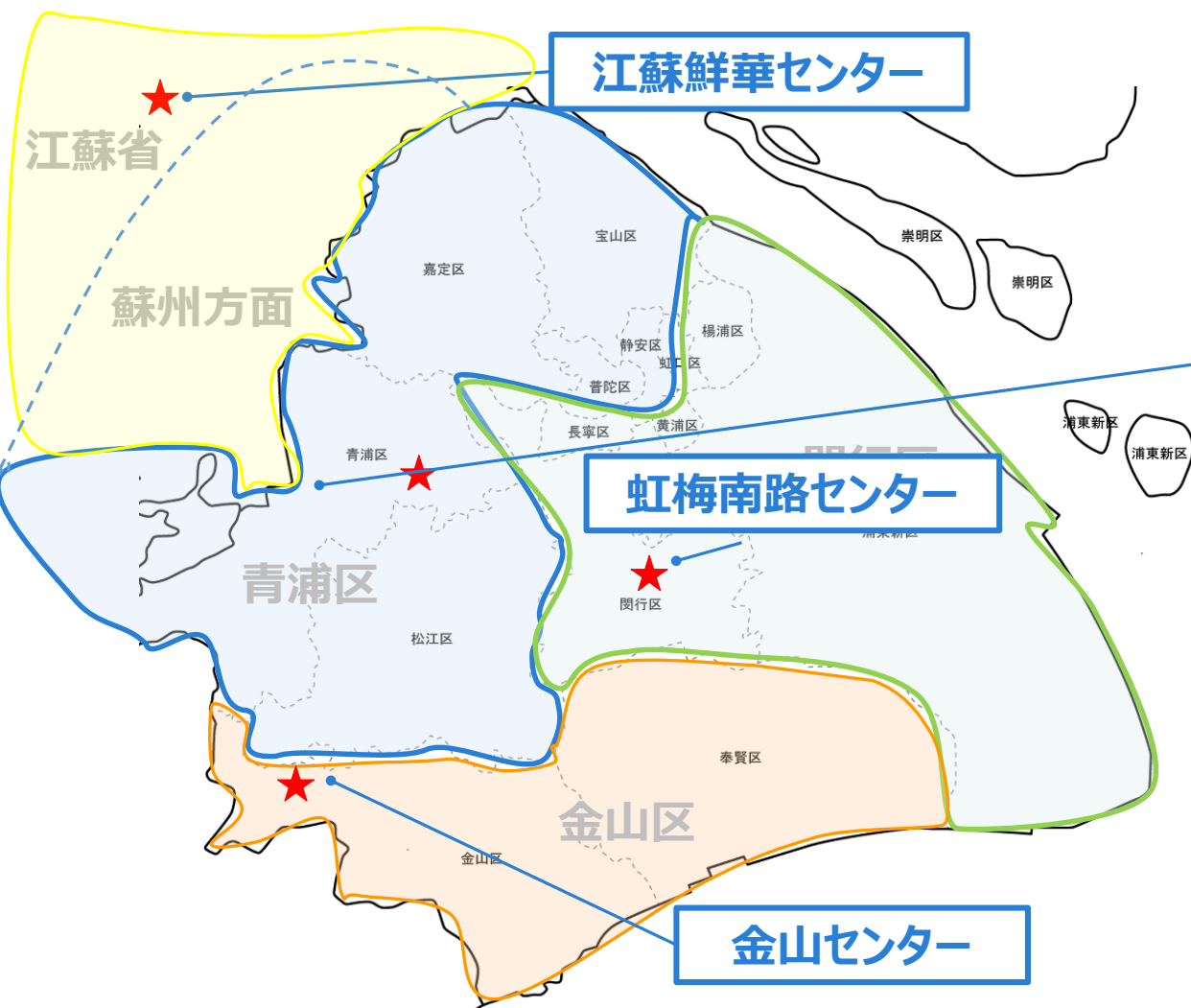
[増設後]



ルアーブル・リヨン増設により  
配送ネットワークが拡充

### 3-②. 上海第二(青浦)センター (2020年5月稼働)

- 顧客増店計画に対応した三温度帯センターの新設 (上海地区3拠点体制へ)
- CVS流通事業の拡大に加え、保管・運送などの旺盛な新規物流需要を取込みへ



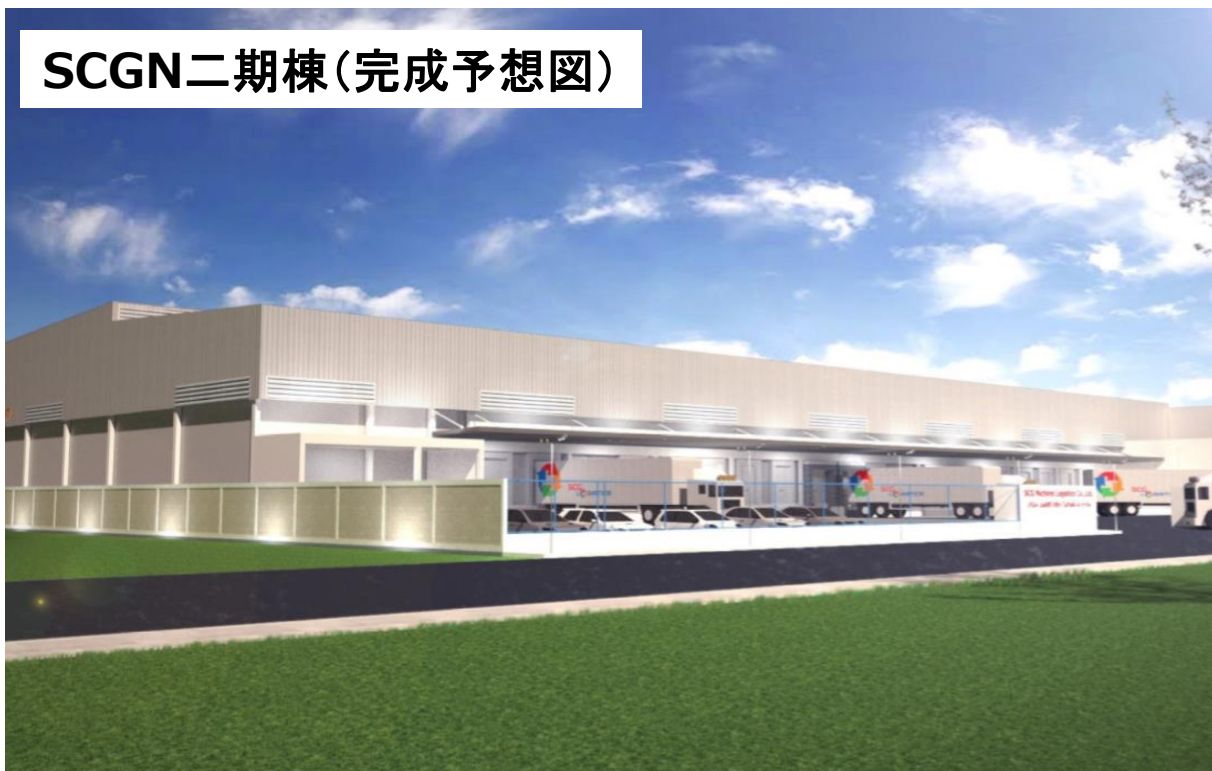
- 江蘇鮮華センターカバーエリア
- 上海第二センターカバーエリア
- 虹梅南路センターカバーエリア
- 金山センターカバーエリア



### 3-②. SCGN二期棟（2021年1月稼働予定）

- 食の流通構造や消費構造の変化に伴い低温物流ニーズが拡大
- 保管能力増強で、卸や外食・量販事業者などの川中・川下顧客の新規獲得

SCGN二期棟(完成予想図)



延床面積 25,612㎡（二期棟単体：13,017㎡）

保管能力 47,460t（二期棟単体：24,660t）

主要設備 急速凍結、解凍庫

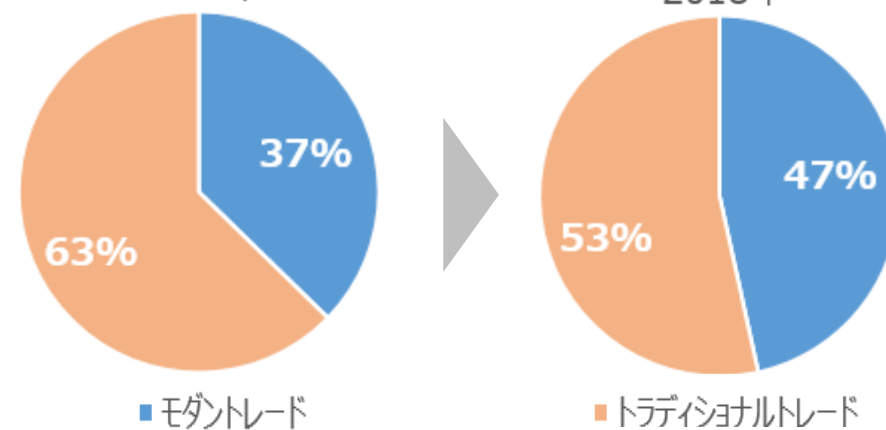
SCGN既存棟



店舗型食品小売店販売額構成比

2008年

2018年



出典：株式会社国際協力銀行「主要産業の動向と FTA の影響」

## 3-②. マレーシア事業の拡大

➤ 南北拠点設置により同国内ハラル低温物流ネットワークを他社に先駆けて構築



### ペナンセンター

稼働時期 2020年1月

### ジョホールセンター

稼働時期 2019年11月

### 輸配送ネットワーク

- ・主要都市圏における共同配送
- ・大都市間幹線輸送
- ・南北エリアの調達物流



### 2019年度

咲カセル✿ロジ女フォーラム全国展開



- 変革意識の醸成と自己改革への取組
- 多様性を受容する企業風土の土台づくり

### 2020年度

女性活躍推進からダイバーシティ推進へ  
(新たな価値を生み出す原動力を醸成)

- ダイバーシティ推進室の設置
- 成長を実感できる新人事制度の導入
- 多様な働き方が認められる企業風土つくり  
とワークライフバランスの実現
- 戦略的な人材配置



- 組織横断的な働き方改革への取組推進
- 従業員のモチベーション向上へ

## 1. 企業概要

## 2. 2020年3月期 決算概要

## 3. 中期経営計画

### ①進捗状況

### ②2020年度重点施策

## 4. 参考資料

## 4. 参考資料

### [損益計算書（連結）]

単位：億円、端数四捨五入、（ ）内利益率

	前期	当期	前期比
売上高	2,010	<b>2,065</b>	+2.7%
営業利益	(5.7%) 114	(5.7%) <b>118</b>	+3.7%
経常利益	(5.4%) 109	(5.5%) <b>114</b>	+3.9%
税引前利益	(5.2%) 104	(5.0%) <b>103</b>	-1.3%
当期純利益	(3.4%) 69	(3.1%) <b>65</b>	-5.8%

※利益率は1円単位で計算

## 4. 参考資料

### [ 損益計算書 (セグメント別) ]

(単位：百万円)

		前期	当期	前期比	増減率
売上高	物流ネットワーク	93,680	<b>100,909</b>	7,229	+7.7%
	地域保管	65,495	<b>64,454</b>	▲ 1,041	-1.6%
	海外	38,328	<b>37,572</b>	▲ 756	-2.0%
	その他・共通	3,545	<b>3,562</b>	17	+0.5%
	合計	201,049	<b>206,497</b>	5,448	+2.7%
営業利益	物流ネットワーク	3,878	<b>4,149</b>	271	+7.0%
	地域保管	6,436	<b>6,732</b>	296	+4.6%
	海外	1,229	<b>1,237</b>	8	+0.7%
	その他・共通	▲ 145	<b>▲ 294</b>	▲ 149	-
	合計	11,398	<b>11,824</b>	426	+3.7%

## 4. 参考資料

### [財務諸表分析]

		前期末	当期末
総資産	百万円	165,252	169,648
負債	百万円	78,583	90,621
うち、有利子負債	百万円	43,895	50,142
うち、有利子負債（リース債務除く）	百万円	27,417	34,986
純資産	百万円	86,669	79,026
D/E比率	倍	0.5	0.6
D/E比率（リース債務除く）	倍	0.3	0.4
自己資本比率	%	52.3%	46.4%
売上高	百万円	201,049	206,496
当期純利益	百万円	6,890	6,487
自己資本利益率（ROE）	%	7.9%	8.2%
総資産利益率（ROA）	%	4.2%	3.8%
総資産回転率	倍	1.2	1.2

注1：D/E 比率の算出方法：有利子負債÷純資産（少数株主持分を除く）

## 4. 参考資料

### [設備投資の状況]

〈設備投資等〉

(単位：百万円)

前期	当期	前期比	次期計画	当期比
11,901	<b>17,072</b>	+5,171	17,290	+217

〈減価償却費〉

(単位：百万円)

前期	当期	前期比	次期計画	計画比
9,642	<b>9,840</b>	+198	10,443	+603

〈主な設備投資〉

(単位：百万円)

完了年月	会社名	所在地	設備の内容	設備投資 総額	当期計上額	完成後の 増加能力
	事業所名				(既計上額)	
2019年 5月	(株)ニチレイ・ロジスティクス九州 那覇新港物流センター	沖縄県 那覇市	物流センターの 運営	1,343	<b>125</b> <b>(1,343)</b>	冷蔵能力 12,485 t
2020年 4月 (予定)	(株)ニチレイ・ロジスティクス東海 名古屋みなと物流センター	愛知県 名古屋市	物流センターの 新設	10,161 注2	<b>7,040</b> <b>(8,657)</b>	冷蔵能力 37,294 t

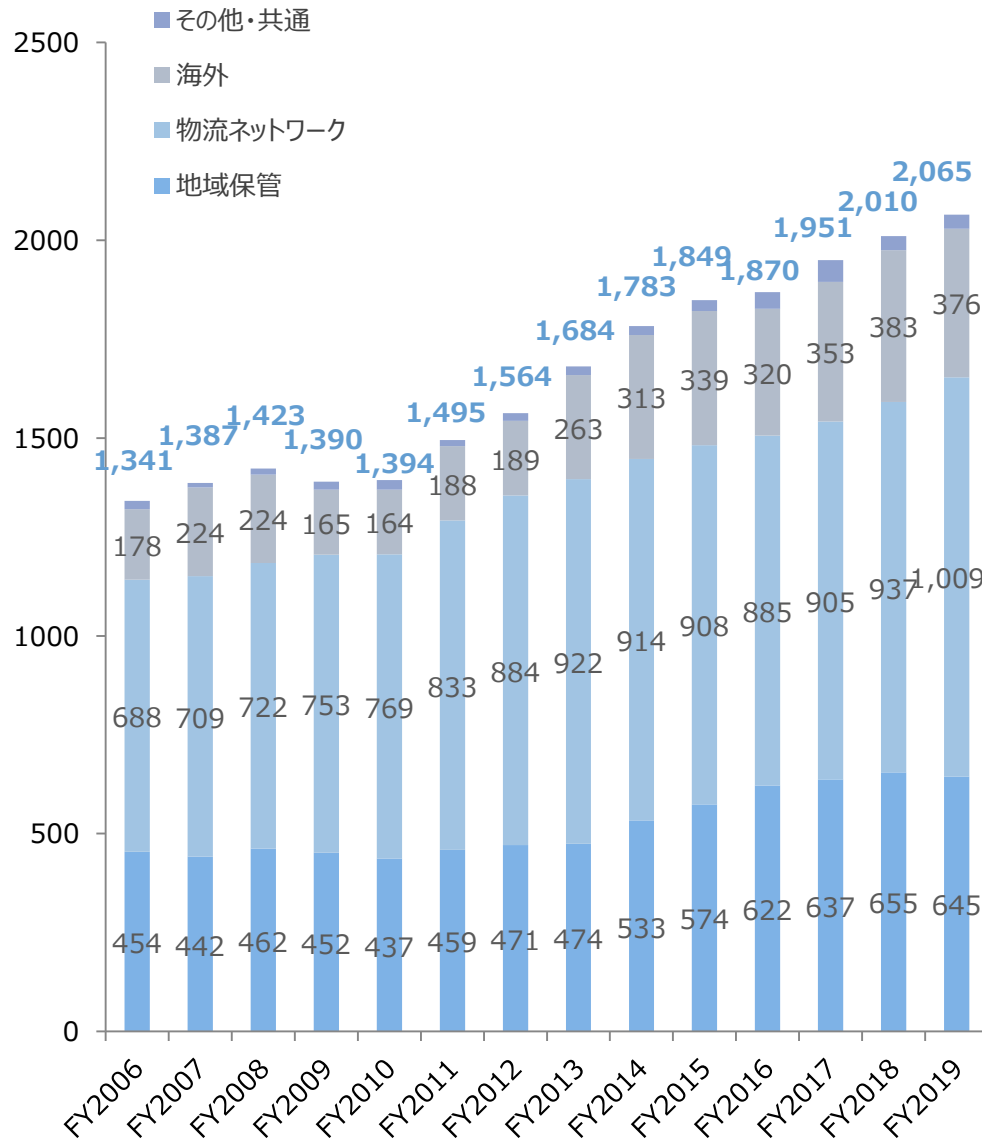
注1： 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

注2： 「設備投資総額」は、計画数値であります。

# 4. 参考資料

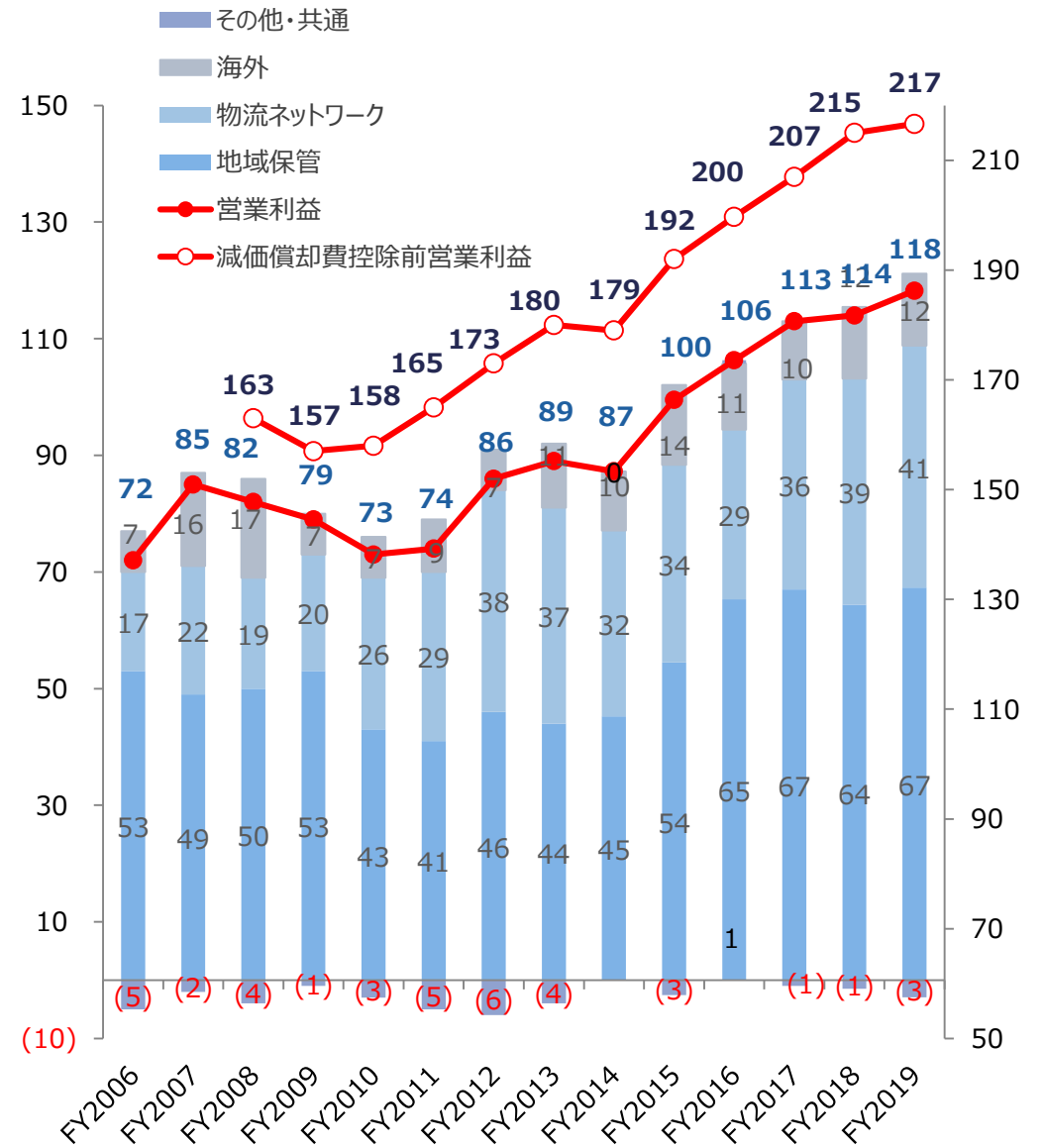
## [分社後の売上高・営業利益推移]

### 売上高推移



単位：億円

### 営業利益推移



単位：億円

この説明資料に記載されている当グループの現在の計画、見通し、戦略などのうち、歴史的事実でないものは、将来の業績に関する見通しであります。

将来の業績に関する見通しは、将来の営業活動や業績に関する説明における「確信」、「期待」、「計画」、「戦略」、「見込み」、「予測」、「予想」その他これらの類義語を用いたものに限定されるものではありません。これらの情報は、現在において入手可能な情報から得られた当グループ経営者の判断に基づいております。

実際の業績は、経済情勢および業界環境、為替レート変動、品質保証体制確立の実現性、新サービスの実現性、成長戦略とローコスト構造の実現性、当グループと他社のアライアンス効果の実現性、偶発事象の結果、将来の出来事から発生する重要かつ予測不可能な影響など、リスクや不確実な要素を含んでおりますので、業績見通しのみで全面的に依拠して判断されることは、お控えいただきますようお願いいたします。

## 【お問合せ先】

株式会社ニチレイロジグループ本社 経営企画部

Tel 03-3248-2175 Fax 03-3248-2130

株式会社ニチレイ グループコミュニケーション部 広報グループ

Tel 03-3248-2235 Fax 03-3248-2120

株式会社ニチレイロジグループ本社 ホームページ

<https://www.nichirei-logi.co.jp/index.html>

